



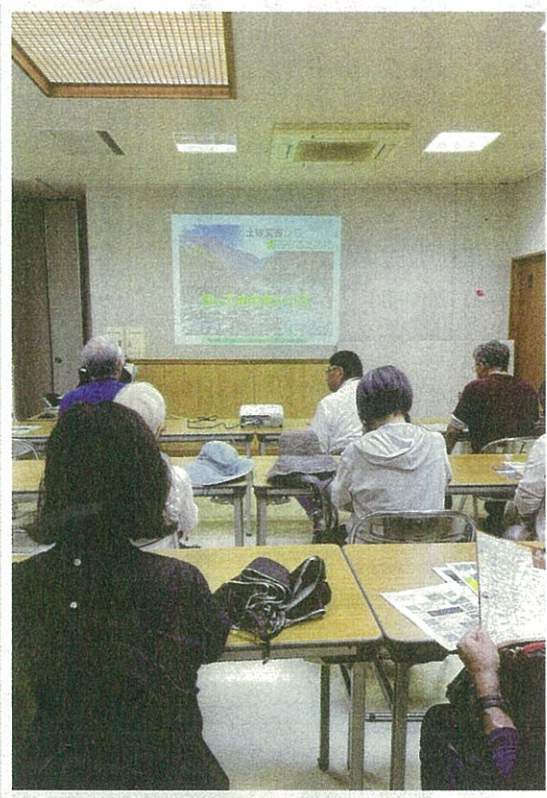
松本市民生委員・児童委員協議会だより

第91号

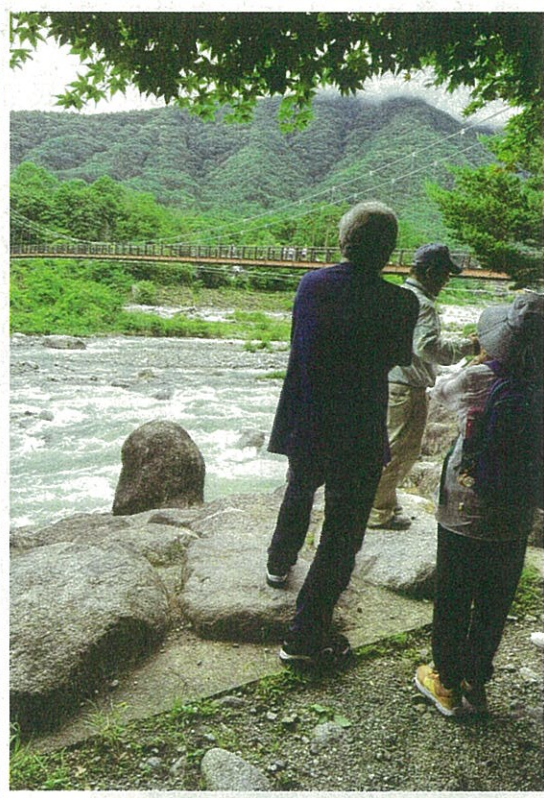
令和6年8月31日

ふれあい

発行者 松本市双葉4番16号
松本市民生委員・児童委員協議会
会長 草深邦子



研修



川の様子を見学

地区民児協 視察研修
寿台地区 令和6年7月2日
駒ヶ根高原砂防フィールドミュージアム



芳川地区 令和6年4月17日
総合福祉施設「プラムの里」



砂防について

第三（河西部）ブロック研修会	P2
児童福祉部会研修	P3
主任児童委員さんにお話を聞きました	P4
連載 今回のニューフェイス	P5

連載 今回のニューフェイス	P6
島内地区 視察研修	P7
こども発達支援課の業務や民生委員・児童委員 とのかかわり・つぶやき・編集後記	P8

第三(河西部)ブロック研修会 「絶望の中から見た陽の町で13年」から

和地区区民生委員・児童委員協議会 会長 川窪 茂

第三ブロック研修会が6月23日、総合社会福祉センターにおいて開かれ、宮城県南三陸町で災害語り部として活動されている芳賀タエ子さんを迎えて東日本大震災当時のお話しを聞きました。

当初、今回の研修はどのような内容にしようか、いろいろ考えました。昨今の自然災害はとも予測不能で、万が一災害が発生した時に民生児童委員の活動に弊害が生じないかとの危惧です。

13年前に発生した東日本大震災もだんだん人々の記憶から忘れられようとしている時だからこそ、過去の災害事例を思い起こして次に来る災害に少しでも備えられればと計画しました。

芳賀さん自身も身近な人が犠牲になっっていることもあり震災発生時の様子や避難所生活について話される時は、思い出され言葉に詰まる時もありました。

震災前、芳賀さんが生活していた南三陸町志津川地区は、リアス式海岸特有の豊かな景観を有し四季を通して折々の新鮮な海の幸を楽しめ

たとえ住みやすい場所でした。13年前の震災までは。

三陸沖で最大震度7、マグニチュード9.0と規模的には大きかったですが、地震による被害よりもその後発生した最大20mによる津波が甚大な被害を起しました。

芳賀さんの自宅は海岸にも近かったため全てが流され跡形もない状態でした。引き潮のスピッドがツバメよりも早かった話にはビックリしました。命からがら逃げ、その後のプライベートが保証されない避難所生活の日々。なかなか風呂にも入れずじつと耐えた大変な日々。

既に震災から13年が過ぎても未だ行方不明の方も大勢いる現状。今は復興も進み震災伝承館も建てられて当時の悲惨な面影はほとんど残っていない南三陸町。

津波はない松本ですが、今回の講演会から得た教訓を今後の民生児童委員の活動にどのように生かして行くべきか考えさせられた研修会でした。

講師 芳賀タエ子様



研修の様子



震災遺構(防災対策庁舎)



震災前の街並み



第2章 東日本大震災

中央：防災対策庁舎(震災遺構)

児童福祉部会視察研修

内地区区民生委員・児童委員協議会 中島 佳代子

6月25日に児童福祉部会の視察研修に参加しました。総勢26名で木曾郡上松町の子ども食堂「寺子屋食堂」と児童養護施設「木曾ねざめ学園」を視察訪問しました。

はじめに「寺子屋食堂」に伺いました。公民館の年10回ほどある「森の寺子屋」という子ども対象の活動を通して、子どもの個食・欠食・両親の共働きや家事・育児の忙しさをらくる食事環境の変化を感じ、またシニア世代からは子育て・孫育てが終わり何かお役に立てないか、というニーズの中で平成30年から子ども食堂が始まったそうです。

実際の調理は公民館の調理室で行っているとのこと。広々とした明るい調理室でした。料理内容とボランティアスタッフの調整が難しいこと、フードバンクでもらった食材を活かしたメニューが作りにくいなど課題もあるそうです。

午後は「木曾ねざめ学園」に伺い、まず学園長から学園の歴史や現状のお話しをしていただきました。私が驚いたのは、入所定員24名で現在満員であること、児童の入所理由の多

くが虐待であること、木曾郡外の子どもが圧倒的に多いことでした。次に施設内の見学をしました。子どもたちの生活する居住棟は「できる限り良好な家庭的な養育環境」を目指すとし、6人でユニットとした居室や水回り、キッチン等は明るく清潔でした。大勢の中でルールを守って生活していくのは大変なことですが、きつと将来の役に立つことと思えます。

スタッフをもっと確保したい、ショートステイの子を早く入所させてあげたいとお話に「親子は必ず一緒によい」訳ではない、困っている親子に手助けできるようにしたいと思いました。

往復のバスの中、おいしいお昼の時には、他地区の方々と情報交換ができました。みなさんの人柄や日頃の頑張りにふれて、私もエネルギーをもらった気がしました。



ブロック活動の様子

第四(南部)ブロック総会 6月7日



草深会長 講演



ケ・セラの演奏(皆でY.M.C.A)

地区活動の様子

鎌田地区(視察研修) 6月17日



軽井沢学園 視察研修



小諸城社懐古園 ガイドによる説明

主任児童委員さんにお聞きしました

鎌田地区民生委員・児童委員協議会 主任児童委員 藤田 友美

主任児童委員を仰せつかり1年半、現在の主任児童委員の活動について紹介致します。
赤ちゃん訪問には民生委員さんにご協力いただいております。鎌田つどいのひろば、高宮つどいのひろばや子育て支援の紹介もしていただいております。

鎌田つどいのひろばでは福祉ひろばとの合同による未就園児さんとの体操、音楽会やクリスマス会が年に6回ほど行われています。毎回20組位の親子さん達がいつも楽しそうに参加され、お母さまたちも沢山のイベントを心待ちにされているようです。

鎌田児童センターでは新年会、お楽しみ会、クリスマス会などへご招待いただき、参加させていただきました。児童による企画ではゲームなどの用意から司会進行まで子どもたちが中心になり、頑張っている姿はとても微笑ましく感じました。
鎌田中学校の運営委員会での生徒会の皆さんとの話し合いでは、コロ

ナ禍で出来なかつたバザーや近隣の方々との交流がしたいと積極的に、又、生徒会活動に参加していない生徒さん達との温度差の解決策はないのか等、友達同士のつながりを大事にしている生徒さんの姿勢を見させていただき嬉しく思いました。
視察研修では児童養護施設へ伺い、「家庭ではないがより家庭的」という職員さん達の細やかな心遣い、施設を卒業してからの将来を見据えた心配り、沢山の子どもさんたちが救われている状況を目の当たりにして感動致しました。

主任児童委員をお受けしたからこそ貴重な経験をさせていただいております。これより1年半の任期ですが、少しでも子育て支援のお手伝いが出来たらと思っています。



安曇地区は北アルプスの麓。松本市の約半分401㎢(松本市978㎢)の面積で、山間地の梓川沿いに点在する独特の地区です。そんな広大な自然の中で少子高齢化の現状に直面しています。
そのような中で生活してゆく為には「自立」し、皆が責任をもち生活することを第一としています。自然の恵みというメリットだけではなく、デメリットも受容し変化の中で穏やかに生活しようとして努力しています。
少子化の影響により、安曇小中学校は3年前より「少人数制特認校」となり区外の子どもを受け入れ、4割が区外より登校してくれています。乗鞍地区の大野川小中学校では県外からの受け入れを進めるなど新たな試み

主任児童委員の活動の中で感じる事

安曇地区民生委員・児童委員協議会 主任児童委員 井上 のぞみ

が始まっています。
しかし急激な「変化」ともなると、戸惑いや新たな悩みなども出てきています。地元の人柄のいざという時「共助」ができる地域性に期待して、徐々に調整して現状を少しでも穏やかな方向に向けてゆけるように日々活動しています。

圧倒的な自然の中で暮らしている人たちは「しょうがない」という達観を持っている人が多いです。でもそれは諦めではなく、今ある現状の中で知恵と最大限の工夫をする「解」を体感している故に穏やかなのでは…と移住して10年で気がつきました。

地域差・年代差 その「差」をネガティブにとらえず、地元で生活する方・区外より来てくださる方(子どもさんやご家族)新たなご縁の中で、お互いが少しでも笑顔になれるような機会をつくりたいと思っています。

地区活動の様子

内田地区 〈子ども防災合宿〉 7月26日・27日



消防署の方のお話を聞く



災害についてのお話を聞く



ハイゼックスでカレー作り



児童園視察

庄内地区 〈児童園視察〉 6月12日

連載 今回のニューフェイス

1期目の民生委員・児童委員さんにお話を伺いました。

本郷地区民生委員・児童委員協議会

小澤 秀元

民生委員を引き受ける前、本郷地区で財産区議員を2期8年間勤めており、11月で終了したとたんに、町会長より民生委員をやってほしいとの話があり引き受けたしだいです。

私の地区はもう一人女性の民生委員がいて2期目としてやるので心配ないとの話でした。定例会に参加してみると男性の民生委員は6名しかおらず心配になった記憶があります。

コロナもようやく収まり高齢者宅の訪問も以前より楽になってきました。玄関先での会話にとどめております。

地域行事や会合に積極的に参加をし悩み事等の相談にものっております。

あかちゃん訪問では主任児童委員と一緒にまわっておりますが何を話しているかわからず迷惑ばかりかけております。

本郷地区福祉ひろばでの行事に、ボランティアとして参加し他の地区の方々とも意見交換を



する中で、先輩方の苦勞話しや体験談を聞き、自分の活動に生かして行きたいと思っています。
自分で解決出来ない事案等は、地域包括支援センターに電話をとり職員さんにお世話になっております。
任期3年の内半分が終っておりますが、地域の方々とのふれあいを通して何か貢献できるような活動していきたいと思えます。

島内地区視察研修 「ようやく実現した視察研修」

島内地区民生委員・児童委員協議会 中村 まり子

暦の上では大暑、松本の最高気温が36度という猛暑の一日、島内地区の民生児童委員19名で松本市のバスをお借りして木曾地域への視察研修に行ってきました。視察先は児童養護施設「木曾ねぞめ学園」と、木曾おもちゃ美術館でした。

私は2期目の委員ですが、ここまでの4年半はほぼコロナ禍にあり、視察研修の計画を立てても残念ながら延期や中止続きでした。今回は予定通り実施でき、座学だけでは実感できない有意義な時間を委員の皆さんと共有できたこと、大変嬉しく思いました。

木曾ねぞめ学園には諸事情から家庭で暮らすことの困難な子ども24名が生活していて、松本地域からの入所者も少なくないとのこと。移転して4年目という現在の建物は一歩入ると木のぬくもりの感じられる、清潔感のある明るい雰囲気、子どもたちは少人数のユニット単位で、なるべく普通の家庭のような環境で心身の安定を図り、生活経験を重ねているとのことでした。現在入所している子の8割以上が虐待を受けてきていて、半数以上が何らかの障がいを持っているようで、心理士など専門職を含むスタッフの皆さんが子どもの意思を尊重しながら、

連載 今回のニューフェイス

1期目の民生委員・児童委員さんにお話を伺いました。

里山辺地区民生委員・児童委員協議会

古畑みゑ子、西村久美子、下田裕子

民生委員・児童委員をお引き受けしてアツという間に任期の半分以上が過ぎました。見守り、地域活動への参加などを通し顔見知りも増え勉強になることもたくさんあり、時にはやりがいを感じられるようにもなりました。

里山辺地区には夏祭り、福祉フェスティバルなど6つの行事があり、年度初めにそれぞれの担当を決めます。その中で研修会担当になったのが私たち3名、みんな1期目です。

先ずは、ただ講義を聴くだけでなく委員同士のコミュニケーションが取れる研修がしたいと考え試行錯誤している時に能登半島地震が発生しました。被害の様子や被災した方々の映像を見て強く感じたことがあります。それは『災害時に直ぐに公共の助けが来て避難所の開設やライフラインの確保に動いてくれる』と

当たり前前にも思っていたことが無理なのだということでした。ことに避難所開設は災害発生時最初に直面すること、地域住民の協力で何とかしなければならぬ状況になるのではないかと思えました。

そこで、避難所開設について机上ではありますがイメージを描き、自分たちが出来ることを学ぼうと『松本市出前講座 避難所HUG（避難所運営ゲーム）』をテーマとしました。市への申請、講師との打ち合わせを経て、委員22名と地域づくりセンター長と補佐にもご参加いただき、4班に分かれて2時間の研修を実施することが出来ました。様々な課題をグループで話し合いとても賑やかな研修となり、当初の目的とした意見交換のできる研修会が出来たように思います。

地区活動の様子

里山辺地区〈ふれあい会食会〉 7月9日



会場の様子



M・J・B・OLD STARS演奏 (松本ジョージ・パーバ オールドスターズ)

本郷地区 〈視察研修〉 7月2日



広域フードパントリー「むすびや」



地区の写真

島内地区 〈視察研修〉 7月26日



木曾ねぞめ学園

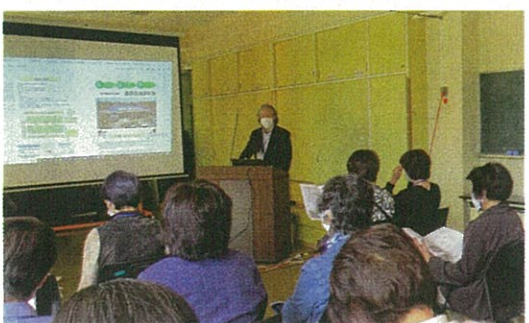


木曾おもちゃ美術館

城北地区 〈バス研修〉 4月26日



ちひろ美術館



信濃学園でお話を聞く

こども発達支援課の業務や

民生委員・児童委員とのかわり

こども発達支援課長 山崎 ひとみ

こども発達支援課は、今年の4月に新設され、同じく4月に開設した「松本市インクルーシブセンター」で、発達障がいや発達に心配のある子ども、医療的ケアが必要な子ども、小児慢性特定疾病の子どもと、その保護者、さらに支援者（保育士・教諭・事業所職員等）を継続して総合的に支援する事業を行っています。従来の「あぶキッズ支援事業」の機能を拡充し、インクルーシブセンターの名称でスタートしました。

センター化に伴って、特別支援教育の経験豊富な現役の教諭3名を「インクルーシブ教育推進員」として配置し、学校現場の支援力向上を目指します。また、臨床心理士を増員し、さらに信州大学医学部子どものこころの発達医学教室との連携により医師の派遣を受け、受診・診断を待たずに支援が開始できる体制を整えました。センターとして動き始めましたが、事業をおこなっていくうえで、

地域の様々な関係者との連携は欠かせません。中でも、民生委員・児童委員のみなさんには、あるおキッズ支援事業の時から、地域の支え手として大変お世話になっています。

地域で暮らす子どもたちの中には、地域の支援が必要な子どもたちがいます。たとえば、大きな災害が起こった時、避難所への避難が難しい子ども、避難自体に困難を抱える子どもなど、様々な事情を抱える子どもたちがいます。

民生委員・児童委員のみなさんは、日頃の活動の中で、地域の様々な状況や課題、困りごとを抱えている住民の方々を把握されています。また、子育て支援にもご尽力いただいています。

今後も、地域の子どもたちが健やかに、のびのびと成長していくことができるように、引き続きご支援いただきますよう、お願いいたします。



編集会議の様子

くふあい

安曇地区民生委員・

児童委員協議会

牛丸 洋子

例年になく茹だるような暑さが続くある日の訪問先で、「今日も暑いで家でいい子してるだ」と仰る御婦人に「そうそう外は未だ暑いし良い子してましょ」と返し、「いい子してましょ耳慣れた方言は、義母の「じじ、もうそろそろ家に入っていい子してましょ」と炎天下、外仕事に精を出す義父を気遣う声でした。ふわつとやわらかな風が「皆様も無理為さらず良い子してましょね」と運んでいききました。

編集後記

ふれあい91号をお届けします。

この「ふれあい」を通して、他の地区の民生委員・児童委員さんの活動を知り、皆様のことからの活動に少しでもお役に立てれば嬉しいです。

原稿や写真等、ご協力いただいた皆様に心より感謝いたします。

季節柄、熱中症にはくれぐれも注意しながらお過ごしください。

(C・Y)

皆様からのご意見・ご感想をお待ちしております。取り上げてほしいテーマなどがございましたら事務局までお知らせください。

TEL 27-3381 FAX 27-2239